

2020年10月16日

## 株式会社高島屋 2021年2月期第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

2020年10月13日(火)に開示した、2021年2月期第2四半期決算説明会における質疑応答の要旨です。

### ■経営課題

Q: 優先して取り組まなければいけない経営課題を短期・中長期に分けて教えてほしい。

A: 短期的には赤字を解消し黒字に戻すことである。上期が大きな赤字になったが、損益分岐点の高さが如実に表れた。トップラインはすぐには上がって行かないと想定しており、短期的には百貨店を中心とするコスト構造改革を断行し黒字化することである。

中長期的には、金融事業、ベトナム事業などで取り組んできた領域で「新たな成長の芽」が出始めており、早期の黒字化をめざしていく。

### ■国内百貨店

Q: 国内百貨店の国内売上は前年マイナス15%で推移しているということだが、逆に言えば85%の売上は戻っているということになるが、その売上の内容について営業的な観点で教えてほしい。

A: 食料品が伸びたが、これは巣籠もり消費の中で百貨店商材の良さが見直されたためと考えている。今後さらに子会社のRTCなどとともレストランを含めたフードビジネスの再構築に取り組んでいく。一方、アパレルの売上が大きく毀損した。訪問着などのいわゆるハレの衣料の売上は減少したが、機能性商品や室内着は動きが良かった。今後、アパレルの再構築にも取り組んでいく。また中長期的には、ECが事業の柱となるぐらいまで伸ばしていきたい。

Q: 富裕層の動向はどうか?

A: 富裕層は中間層より手応えがある。外出自粛要請が緩和された7月以降の落ち込み幅も中間層より小さく、売上シェアも数ポイント高まった。今後の売上回復のけん引役になっていくと考えている。

Q: インバウンドは前年マイナス95%で想定されているということだが、入国規制の緩和も始まる中、上振れする可能性はあると思うか?

A: 今後入国規制が緩和されていけば、インバウンド売上は回復する可能性が高いと考えているが、現時点では前年比△95%で想定している。また、海外の各店についても各国の規制が緩和されれば好転すると期待している。

### ■東神開発

Q: 今後、東神開発をメインに開発を進めていくということだと、不動産関連の資産が増えてくると思う。バランスシートのコントロールや資金調達についても変わってくると思うが、これについてはどう考えているのか?

A: 今後成長が見込める東神開発の事業領域において必要なものには適宜取得していく考えである。一方、既存のアセットについては、拡大よりもむしろ価値を高めていくために適切なファシリティマネジメントに取り組んでいく。

## ■EC

Q：ECにおいて、何が好調であり、また500億円の売上目標を達成していくためにどのような取り組みを進めていくのか？ラグジュアリーブランドも取扱っていくということか？

A：当社がもともと強みとしている「ギフト」が伸びているが、さらにオケーショナルギフトや自家需要も伸ばしていく。ラグジュアリーブランドの取り扱いも増やしていきたい。

## ■年度計画・財務方針

Q：連結納税制度を適用するということだが、上期に計上している57億円は本年度収益だけに寄与するのか、来年もいづらか発生するのか。また、この57億円は年度計画に入っているのか？

A：年度計画には織り込んでいる。キャッシュフローの改善という形で来年以降も効果が見込まれる。

Q：CBのリファイナンスはどう考えているのか？

A：現下の状況では、エクイティファイナンスは好ましくないと考えており、普通社債もしくは銀行借入を考えている。

以上